赤エリア

「模型を使った復興まちづくり体験」意見のまとめ

エリア内の町内会

- 高田馬場三丁目宮田会
- 高田馬場三丁目戸三親和会
- 高田馬場三丁目光和会
- 高田馬場三丁目北町会
- 高田馬場西商店街振興組合
- 高田馬場南親睦会
- 戸塚四丁目南町会
- 戸山団地連絡会
- 高田馬場親栄会

1 まちの目標像

1．ご近所同士が支え合う交流の町

道端にベンチを置いて付近にご近所同士の交流を生み出すスペースを設けていく

2．災害に強い安心安全の町

防災倉庫を設置することや、火災が来ても延焼せず、いざというときの避難路が確保されたまちづくりを行なっていく

被災時の情報共有

① 避難所を利用する

戸三小などの避難所を利用して情報共有を行う

②町会を中心に情報を広める

町が焼けても町会という母体は残るので、町会役員を中心に情報交換行い、町の人に広める

事前にできること

①事前から地域のつながりをきちんとつくっていくかが重要。
②地域の一部だけでなく全体に PR していく。実際の復興の様子を映像にまとめて見てもらうなどする。
③地域の住民と協同していく事が大切
④共同化という仕組みがこれからの社会の中でうまく機能する為の行政との関係づくりを行う

2 都市計画事業に対する提案

① 民間再開発を利用したコミュニティ施設の計画

・高齢者は病院・買い物に行くのが大変なので、ビルの中にスーパー、福祉施設を入れてもらいたい
・一階がオープンになるので共用施設や緑地帯などを作ることが出来る

② 防災性の高い幹線道路の計画

・戸三小通りはくねくね曲がっていて防災性が低いので、広い幹線道路にし、 緑地帯を設けていく
・自転車が通るのも危ないため、自転車を分けることも必要

③ コミュニティ道路の計画

・神田川に通じる道を横浜のようなくねくねしたコミュニティ道路として整備し、川まで繋がるようにする
・町が分断されたり、車が沢山通ったりしないようになるべく狭い道にする
・高齢者に広い道路は危ないので住民の車が入れるくらいが適度でいい

④ 回遊性のある車の少ない生活道路の計画

・消防車が入れれば良くて、幅員6M程度の生活道路を主体とした計画が必要
・ビルを境に区切られてしまうこともあるので回遊できるような道の計画が必要

民間再開発ビルの規模の適正化

・大きすぎるのは嫌なので規模を適正化すると共に緑地を入れて欲しい

3 自力再建で達成したい目標

①円滑な交通環境の整備

・適した場所に、適した役割(避難用,交通用)の道路を通す。
・狭い道路は清掃車が入れなくて、まちが清潔に保たれない。
・道路は４ｍにする

②災害時の安全な避難

・安全に二方向避難できるように、袋小路をなくす。
・復興する際に補助金によって焼け残った家の再建も出来るようにする。

③災害時における延焼の防止

・共同化住宅が増えると密集が改善されてすっきりする。
・道路がきちんと舗装され、広場が所々にあり、地域の交流の場が増え、災害にも強くなった。

縮尺: 1/300　都市計画事業後の模型

4 共同化でできること

①通り抜けの創出

・延焼防止の役割広い中庭を造って、避難時にも有効な通り抜けを創出する

②近所の人と交流の場

・地域のコミュニティを形成する場所となるような中庭(共同菜園など)をつくる

③高齢化への対処

・高齢になると一人で暮らす事に不安があるので共同化することは有効
・高齢者施設を併設する

④近隣との組織づくり

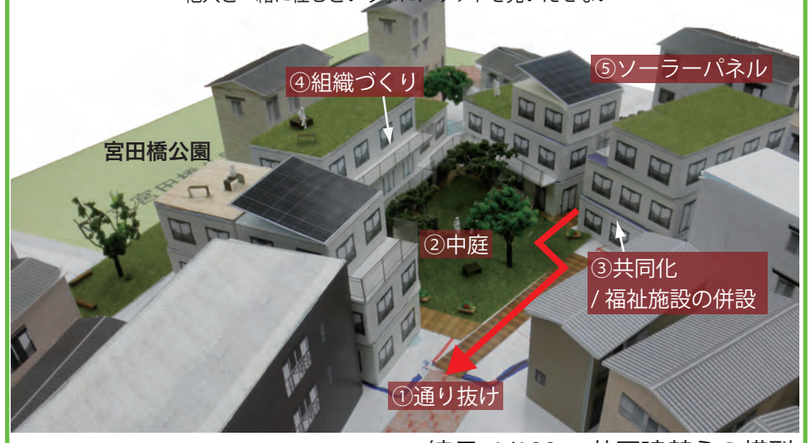
・共同化する敷地の権利者のみでなく、周辺地域に住む人たちも入居できるような組織づくりを行う事も重要

⑤災害時の対策

・ソーラーパネルの設置による災害時の電源の確保

解決しなければならない課題

・資金の問題をどのように解決していくか。誰が指揮を執っていくのかが問題
・震災によって燃え残った場所で、地区計画や道路計画を行っていく場合の利権関係をどのように行えるかが難しい
・どのような助成を受けてやっていくのか
・共同の住宅は良いが、今まで戸建て住宅でプライバシーが保護されていて他人と一緒に住むという事にメリットを見いだせない



縮尺: 1/100　共同建替えの模型

青エリア

「模型を使った復興まちづくり体験」意見のまとめ

エリア内の町内会
- 諏訪町会
- 高田馬場町会
- 高田馬場銀座商店街振興組合
- 高田馬場清和会

1 まちの目標像

1. 防災のまちづくり

火災が起きても広がらず延焼しないようにまちを復興していき、いざという時のための避難路を常に確保しておく。

2. 住民同士支え合う交流のまちづくり

ご近所同士でよりよいまちを共に考えていけるように、住民同士で交流を図って支え合っていけるまちをつくる。

3. にぎわいのある緑豊かなまちづくり

緑が豊富で、商店街や憩いの場があるなど、にぎやかで住民がみんなで楽しく過ごせるまちをつくる。

被災時の情報共有

① 地域での会合を開く

まちの復興を地域で考えていくことは不可欠である。地域内で励まし合いながらこれからの復興を前向きに考えていく。

② お祭りやイベントを開催する

お祭りやイベントを開催することでバラバラに避難した地域住民の情報共有の場を設ける。

避難中では大きなイベントを開催するのは難しいため、地域内で行える規模の催しものを開催する。それには体制を整え、準備をする必要がある。

事前にできること

①防災備蓄倉庫・消火器等の確認
②避難路の予測とその改善
③地域内でできる催しものの準備
④災害にそなえた地域内での体制づくり

2 都市計画事業に対する提案

①道路の歩車分離

道が整備され車の利便性が向上する一方 ,子供やお年寄りにとっては危険であるため、車・自転車・人がそれぞれ分かれて安全に使える道路が欲しい

② 青道に街路樹などの緑を配置する

青道には街路樹などの緑を豊富に配置し、みなさんで楽しく歩ける場所が欲しい

③小道路にポケットパークなどの緑を配置する

高層ビルが林立する無機質な街になってしまう危険性があるため、メインの青道だけでなく間の道にも緑を配置

④再開発部の商業施設の充実

地域の人々が地域で買い物や利用ができるために、再開発部分の公共部にスーパーやジムが欲しい

⑤商店街の展開

住まいだけでなく、近くに買い物ができる場所が欲しいため、青道沿いに商店街を展開する

⑥福祉施設の充実

復興が長くなった場合、子供ができたり、自分自身が高齢者になっている可能性がある。そのため、子供を育てていくために保育所や高齢者のための福祉施設が必要である

⑦地域で協議を行う場の設置

地域で復興を話し合える拠点的な場所が必要なため、再開発部分に地域の人々が利用できる会合施設が欲しい

3 自力再建で達成したい目標

①袋小路の解消

袋小路は安全に避難することが難しく危険である。
自宅での被災以上に、他人宅に訪れている場合非常に危険性が増す。

②未接道宅地を共同建替え

未接道宅地は近隣と共同しなければ建て替えらず、現状では誰の手にもつけられず、空地として残っていく。

③崖・段差の改善

この地域は崖・段差が多く高齢者が生活する上で大変不便である。
また、老朽化した擁壁も崩壊する可能性があり危険である。

④復興資金の確保

高齢者や定年退職者にとって、新たに復興するための資金を出すことは難しい。

⑤床面積の確保

道路拡幅により敷地面積が縮小し、新たに住宅を建てる際に十分な床面積が得られなくなってしまう。

縮尺: 1/300　都市計画事業後の模型

4 共同化でできること

①袋小路、未接道の解消

細分化していた敷地内で道路を新設したり、敷地内に通り抜けを設けることで、もともと袋小路であった場所や未接道の解消を行う。

②建築による段差・崖の解消

障害となっていた段差・崖はエレベータでつなぎバリアフリーを図る。
また、坂のような道路を設置することで崖の上下を車が通りやすくする。

③福祉施設の設置

共同化家屋内に高齢者福祉施設・保育園を入れる。

④緑地空間・日射が差し込む空間

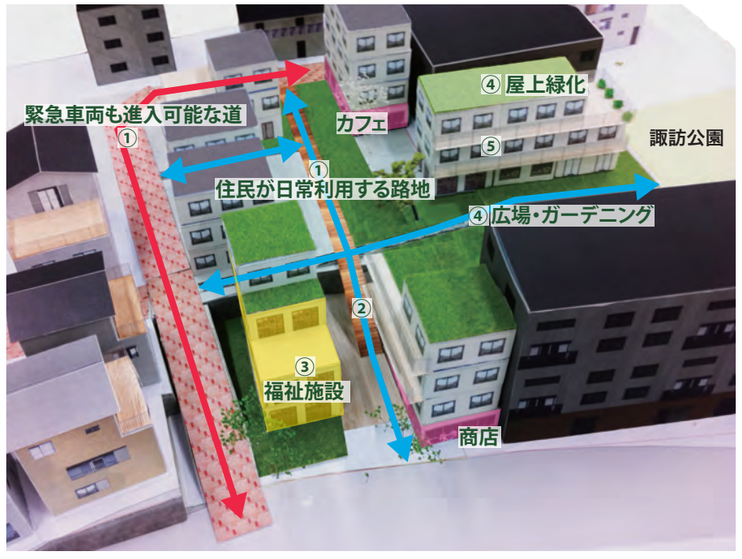
屋上緑化、ガーデニングやバーベキューができ、地域住民の交流の空間

⑤十分な床面積の確保

共同化でより大きな建物を建てることができ、より多くの床面積を得ることができ、アパート経営も可能である。

⑥資金面での解決策

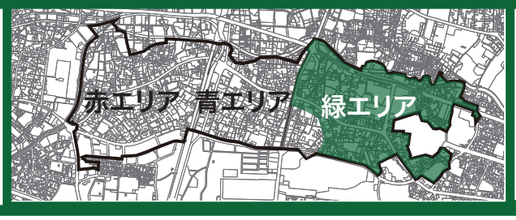
共同化をすることで公共部の建設に補助金を得ることができる。
また、共同化によって協力して資金を出しあうことができ、個人で行うより再建がしやすい。



縮尺: 1/100　共同建替えの模型

緑エリア

「模型を使った復興まちづくり体験」意見のまとめ



エリア内の町内会

- 和敬会
- 町友会
- 早稲田早栄会
- 稲穂会
- 豊睦会
- 早稲田親和会
- アス西早稲田全体管理組合
- 西早稲田二丁目ときわ町会
- 西早稲田二丁目協和町会
- 西早稲田三丁目睦町会
- 三島町会
- 西早稲田文化町会

1 まちの目標像

1.お年寄り、体の不自由な人にもやさしいまち

・福祉、コミュニティ機能を備えた施設や仕組みが必要である。
・地域で楽しめる場所や、近所と交流出来る場が欲しい。

2.災害に強い、安心・安全なまち

・延焼しない、安全に避難できるような道を確保する必要がある。

被災時の情報共有

1.お祭りや催し物の必要性

・気分も豊かになるので、そのような場での情報共有は良い。

2.外部の支援の必要性

・仮設住宅で暮らす中では、広報活動や催し物等が行えるほどの精神的余裕が持てないと考えられる。そこで、早稲田大学など他組織の支援を利用することで、それらを可能にしていくことができる。

3.行政の先導の必要性

・各地に点在した被災者の所在確認や、連絡を取るための体制が必要であり、そのためにはまず行政が動くべきである。

事前にできること

①他組織との関係を築く
②高齢者に必要な機能を整備する
ex.)福祉施設、趣味を楽しむ場、会話できる場、緑地

2 都市計画事業に対する提案

①高層化による空地の確保

・高齢者には安全な道路の確保が重要なので、ある程度の高層化は必要である。また、高層化により周辺に設けることができる緑地は、趣味や高齢者の交流の場としても重要である。

②商業施設の設置

・高層化による所帯数の増加に伴い、建物内に商業施設を併設することも必要になる。
・高齢者にとっては、近隣で買い物ができることが重要であるため、近隣に商店や商業施設が必要である。

③従前のコミュニティの確保

・従前から住んでいた人だけのフロアを設けるなど、従前のコミュニティに配慮する。
・集合住宅内の会議室を、マンション内や従前のコミュニティを育む場として利用する。

④安全な道路の整備

・歩道、自転車道、車道を分離出来る12m幅の道路を設置することで、子どもや高齢者の安全も確保すると共に、緑の多い安心して歩行できる道路を実現する。

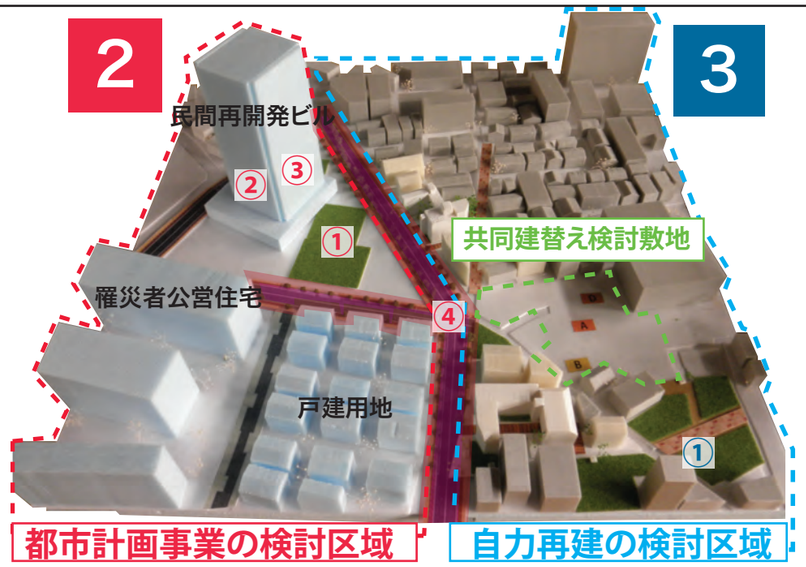
3 自力再建で達成したい目標

①ルールに基づいた建替えによる良好な町並みの形成

・一貫したルールに基づいて建替えを行うことで、安全性や良好な住環境の確保を実現すると共に、良好な町並みを形成を実現する。
・統一性のない建物は建設しないようにする。

②福祉機能の充実

・高齢者のための福祉施設などを整備することで、お年寄りにも安心なまちを実現する。



縮尺: 1/300　都市計画事業後の模型

4 共同化でできること

①従前のコミュニティへの配慮

・従前のコミュニティに配慮した共同化の計画が必要である。

②防災性の向上

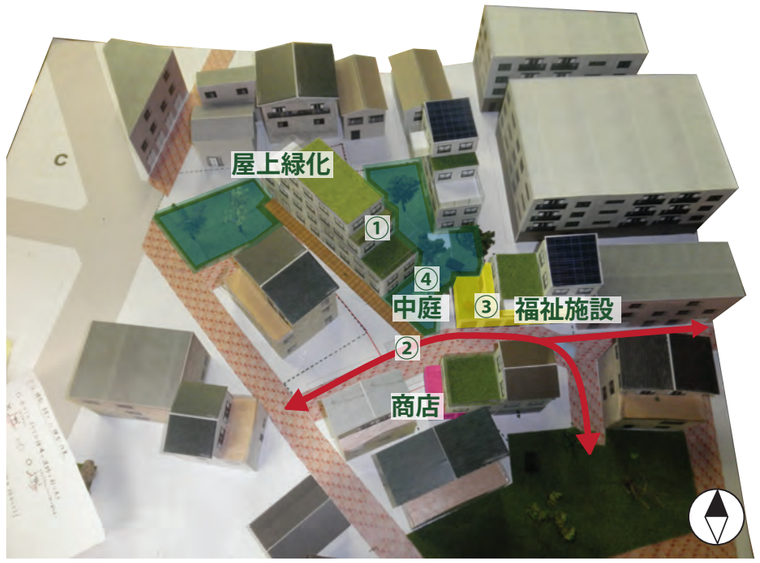
・未接道を解消する必要がある。
・耐火建築物で共同建替えを行うことで、火災時の延焼を防ぐようにする。

③福祉機能の整備

・共同化した建物内に福祉施設を設ける。

④良好な住環境の整備

・中庭を設ける。また、方角や風通しに配慮する。
・土地が狭くなるほど沢山の道路は設けない。



縮尺: 1/100　共同建替えの模型